

韓国社会福祉共同学会大会での自由研究発表報告 I

滝口 真
西九州大学

日韓両国の地域包括ケアシステムを支える福祉職員に感謝して

この度、日本社会福祉学会からの選考を頂き、2020年10月23日(金)～24日(土)において韓国社会福祉学会社会福祉共同学会大会での自由研究発表の機会を頂きました。昨年度の韓国社会福祉学会春季学会大会(於:韓国ソウル神学大学校)からの招聘を受けた学会発表に続いて2年連続の機会に恵まれました。

学会発表テーマは、「地域包括ケアシステムにおける多職種連携に関する日韓比較研究 — 日韓高齢者福祉施設職員への調査の視点より —」であり、趙 廷仁西九州大学大学院博士後期課程院生との共同発表でした。地域の社会資源を有機的且つ計画的に総体として提供する地域包括ケアシステム(韓国の場合、コミュニティーケア)の実情把握のため、日本福祉職員566人、韓国福祉職員569人、両国有効回答合計1135人のデータを分析の対象としました。質問項目の内容的妥当性の検証及び調査実施においては、SOONGSIL CYBER大学校高齢福祉学科 趙 文基学科長からのスーパービジョンを受けました。また、韓国社会福祉法人ヨンコンマール 趙 唐鎬常務理事、同法人国際部 洪 進基部長並びに日本国内複数の社会福祉関係者のご協力を頂き感謝しています。

発表概要としては、日韓比較研究の観点から、日本の介護保険制度と韓国老人長期療養保険制度の範囲と特徴、制度成立の背景、少子高齢化の人口動態、サービスの種類、管理運営体系、認定手続き、被保険者、認定等級と認定判定基準などについて分析しました。特に人的資源の一つとして、日韓両国福祉職員の共通性として、両国とも援助者と利用者共に女性の割合が多く、福祉職員の7割以上を女性の40代以上が占めていました。一方で差異性については、日本で最も多い資格は介護福祉士が約半数でしたが、韓国では、療護保護士(日本での介護職員初任者研修程度)が約4割でした。また、学歴では、日本は高校卒業生が約4割と最も多く、韓国では約3割が専門学校卒であり、その他に大学院博士後期課程修了者も福祉現場で従事している点から韓国高学歴化が確認できました。インタビューでは、両国とも福祉サービス利用者のスピリチュアルケアの重要性をも認識しており、実践現場での尊い働きに感謝を覚えました。

なお、本研究においては、科学研究費補助金(17K04290)、私立大学研究ブランディング事業・西九州大学「認知症予防推進プログラム SAPS」並びに日本福祉文化学会「研究プロジェクト助成」を受けての研究成果の一部であることを付記します。